

つことであり、それがおのずから余暇の活用につながると思ふ

○成人の理解を得るために

一方成人も青少年の余暇について関心を持つことが大切だが具体的に

は

- ・企業主の青少年に対する理解の促進。
- ・グループ活動の場である施設の開発、利用の促進。
- ・グループの充実、計画的なプログラムの樹立、よきグループリーダーの養成
- ・一般成人に青少年の心理、興味・欲求等について正しく理解させる

主張

毎日幾人かの犯罪者や非行少年に接し、その更生を念願してあれこれと将来の生活方針などについて話し合い指導助言にあたっているが、ほとんどの者は、現下の複雑な社会環境の中にあつて、何かの誘惑に打ち勝てず、落伍した者といえる。彼らは犯罪に陥り入れその家族までが世間から冷たく眺められ、かくの非難を受ける結果にいたつたことは、間接的にはいろいろな原因が考えられるが、根本原因として今日の世相が大きくとり上げられる

青少年非行のあげに

石村 清

「近頃の子どもは」と悪いことの代名詞に大人たちは使つてゐるが、これは間違つた考へ方で大人たちが少年を犯罪の手に使つたつた悪質な事例も非常に多い。店主がもつぱら営業成績を上げたために無免許の少年に車を運転させる。過酷な労働をおしつけて、スピード違反を強要奨励する不心得者もいるかと思はば不良図書や有害興行の製作に宣伝広告を用いて金儲けをたくらむ者もいる。目の回るような流行のはしり等すべてが思慮分

別は足りない少年たちを猛烈に刺戟して、ついには非行へとたつた子どもとも泣かされてゐる親は余りにも沢山ある。社会環境の浄化こそ今日の急務であるが、これはなかなかの難事である。有害と思われるものについて業者に善処協力を促すと、大方の人が営業に響く、食つて行けないと反撥される。セックスを売りのものとする週刊誌や映画などの強い刺戟が行動にあらわれ、強姦事件を犯した少年グループは珍らしくない。金儲けの陰には、犯罪者という大きな手を受けた少年、被害弁償による財産上の損害も無い兄弟姉妹にまで肩身のせまい思いをさせる。一朝にして家庭の平和は崩壊し大悲剧を招来する。これにひきかえ相手被害者の苦悩は更に深刻で如何なる方法にも弁償できるものではない。これはほんの一事例にすぎないが、こうした事実のあることをわかつてもらいたい。

青少年の健全育成をはかるために、大人たちは良識ある行動によつて協力していただきたい。(熊本保護観察所 調査連絡課長)

る方策
など地域の問題としてより真剣に取り組むべきだろう。

◎青少年とグループ活動

青少年は一般に仲間を求め、グループをつくりたいという欲求を持つてゐる。従つていろいろの青少年団体があるが、これらの団体は、青少年に対して集団生活に対する自発的訓練を行なうところに教育的な意義があり、人間形成のうえに大きな役割を持つてゐるものといえる。

特に最近の社会構造の急激な変化からもたらされた社会連帯性の欠除や孤立性を解決する意味からも、青少年の

グループ活動はさらに助長されなければならぬことはいふまでもないことだろう。

最近の青少年団体の活動を見てみると次のような動向が一つの特長として見られる。

○各青少年団体が相互に連絡を密にし、提携していろいろの活動を実施するようになってきたこと。

○社会開発への参加や奉仕活動をとる動きがあること。

○少年の校外活動を振興しようとする動きがあること。

○指導者の養成ならびに研修が充実してきたこと。

○各種の青少年グループについての知識を深め、グループのリーダーの集会について配慮すること

○留守家庭児童については、学校地域体へ刺戟を与えること。

○指導者の研修にはできるだけ参加しやすいよう配慮すること。

○成人式そのものは非常に意義深いものであるが、一般にマンネリ化してき

てきたこと。

た傾向があり、形式的で内容がないなどの批判があるようである。

しかしすべての成人式がそうかどうかではなく、関係者の努力によって改善がなされ、効果的で有意義な、しかも皆から喜ばれている成人式もある。たとえば阿蘇青年の家で厳肅な中にも楽しい成人式を行なつてゐる市町村などそのよい例である。

要は「成人の日」の趣旨を正しく理解し、青少年団体や青年自身が成人式の企画運営に参加することによつて、式や行事を改善し、内容を豊かにしてゆくことが大切ではなからうか。

「成人の日」は成年に達した男女青年の新しい門出を祝福するとともに、成人としての喜びと責任を自覚させ、社会の一員として将来の幸福を祈念する厳肅なしかもあたたかみのあふれたものであること。

◎「成人の日」について

子どもは生まれてから大人になるまで家庭、学校および社会において、いろいろの影響を受けて成長するわけであり、家庭は親子の愛情と信頼関係の中で行なわれる教育の場であり、人生を教える場でもある。

そういった意味で生活の最小単位である家庭は、青少年の人間形成のうえでも最も大きな比率を占めてゐるといっても過言ではない。

とこの心がつくようにならなければならない。感謝とかいたわりの気持ちが助け合い、協力という態度となつてあらわれ

てくるわけである。

第三に自由にはふるまうが責任は自らとる、そして他に迷惑をかけないという己に厳しい人間が育つような場であるべきことが望まれる。

とこの心がつくようにならなければならない。感謝とかいたわりの気持ちが助け合い、協力という態度となつてあらわれ

てくるわけである。

第三に自由にはふるまうが責任は自らとる、そして他に迷惑をかけないという己に厳しい人間が育つような場であるべきことが望まれる。

とこの心がつくようにならなければならない。感謝とかいたわりの気持ちが助け合い、協力という態度となつてあらわれ

てくるわけである。

第三に自由にはふるまうが責任は自らとる、そして他に迷惑をかけないという己に厳しい人間が育つような場であるべきことが望まれる。

とこの心がつくようにならなければならない。感謝とかいたわりの気持ちが助け合い、協力という態度となつてあらわれ

てくるわけである。

第三に自由にはふるまうが責任は自らとる、そして他に迷惑をかけないという己に厳しい人間が育つような場であるべきことが望まれる。

とこの心がつくようにならなければならない。感謝とかいたわりの気持ちが助け合い、協力という態度となつてあらわれ

てくるわけである。

第三に自由にはふるまうが責任は自らとる、そして他に迷惑をかけないという己に厳しい人間が育つような場であるべきことが望まれる。

とこの心がつくようにならなければならない。感謝とかいたわりの気持ちが助け合い、協力という態度となつてあらわれ

てくるわけである。

第三に自由にはふるまうが責任は自らとる、そして他に迷惑をかけないという己に厳しい人間が育つような場であるべきことが望まれる。

。「家庭の日」を

成功させるには

県でも昭和四十一年一月から、毎月第一日曜日を「家庭の日」と定めて県内に普及するよう努力しているが、この「家庭の日」をどうしたら成功させることができるのか、さきに皆さんからいただいた意見をまとめてみると次のようなことが言えるようである。

△「家庭の日」にほれる
やろうという意欲があればアイデアも生まれてくる。

△トップの共同責任体制をつくる
各関係機関団体の長がそれぞれの立場で責任を持つことが大切で、一部の人達だけの一人相撲に終つてしま

役に立つ人間に

佐藤 慶子

「私の洗濯物は、母が洗つてくれます。」「食事の用意も後かたづけも母がします。」と言うので、「あなたはお手伝いしませんか。」と尋ねると「いろいろ手伝うと手が荒れますから。」との事である。「みんなお友達はどうですか。」と問いますと、「誰も自分でやる人はいませんよ、お勉強があるし、そんな

暇もありません。」との事であった。二、三年前、最近の女子高校生の中に、お料理や家事のお手伝いをしない事を自慢のようにしている人が多くなりました。と話されたある先生の顔が思い出された。

（ガール・スカウト日本連盟 熊本県リーダークラブ会長）

△役所や団体がまず模範を

この運動は民間運動とはいふものや、やはり役所や団体がこの日は公的行事を一切やめることが必要。

△各機関団体の分担を明確に
目標は共通であつても、それだけでは責任がはっきりしないので、話し合ひで分担を決め実行すること。

△学校の協力を
学校が「家庭の日」の教育的意味と重要性を認識して、これを積極的にとりあげることが成功への道である

△予告をしよう
「明日は家庭の日」と予告することは大きな効果がある、例えば広報車や有線放送を利用してよい。

△広報紙や公民館報で
広報紙、公民館報その他市町村のお知らせ等に「家庭の日」をとりあげ各戸に配布して知らせる。

△成人式のあり方
成人式そのものは非常に意義深いものであるが、一般にマンネリ化してき

。「家庭の日」のねらい

「家庭の日」はマイホーム主義にながら、マイホーム主義の青少年を育てるものではないかという意見が一部にあるようである。これは「家庭の日」を誤解してゐるものである。「家庭の日」の運動の底を流れるものは、家庭の本来の民主化への願いがこめられているのである。民主的な家庭とは個人が尊重され、個人の自由も約束される反面、それにとまらぬ厳しい責任が個人に負わされている。つまり個性の確立という一面と、家族が分に應じて協力しあふことによつて、家庭という協同体がうまく運営されるという面があるわけである。それがやがて地域の連帯感へと拡大していつてはじめてよい地域社会が生まれてくるのである

。「家庭の日」の

目標はどこに

第一に家族がお互いにはんとどうに話し合うことができるようになることが基本である。押しつけてなく、お互いに相手の言い分を聞き、納得づくでゆける家族関係をつくることである。第二に豊かな人間性―相手を思いや